

# 会報

COM 通信 第123号  
発行日：2024年5月17日  
編集・発行：COM 事務局  
〒399-0021 松本市寿豊丘 609-30

## ウェル COM!

(コムハウス運動を支援する市民の会)

会員のみなさま

### COM 最終(2024年度)総会のお知らせ

COM 会長代行 村松功啓

2024年度の「コムハウス運動を支援する市民の会:COM」総会を、以下のとおりに開催いたします。

わたしたちは前々年度より、アルプス福祉会の提案をうけて、COM とアルプス福祉会の関係性を、従来の「車の両輪型」から、アルプス福祉会との「一体型」へ転換する方向性を持ってきました。

また2023年度は、「COM とアルプス福祉会の関係性を見直し、COM のこれからを見つける」ことを、COM の年度方針としてきました。

その結果、2024年度より、COM はアルプス福祉会と一体化し、私たちはCOM の会員からアルプス福祉会のサポーターへ転換することを方針といたします(くわしくは、別紙「これからのCOM」方針案をご覧ください)。

そしてこれにともない、役員体制、規約をもった「独立した組織としての活動」は終了することになります。

ですので、COM の2024年度総会は、COM の最終総会となります。

COM は1999年6月に発足してから、おかげさまで25年が経ちます。

COM の会員のみなさま、かつて会員になってくださったみなさま。コンサート、映画会、講演会など、これまで様々なイベントに参加くださった方々。物資販売などで何度もご協力くださった方々…。

この25年間でご支援くださったすべての方にこころから感謝を表して、この最終総会を迎えたいと思います。

なお、総会記念として、映画「みんなの学校」上映会を行います。

ご多用のなか恐れ入りますが、会員のみなさまのご参加を、お願い申し上げます。

### COM 最終(2024年度)総会

日時:6月29日(土)13:00~16:00 場所:第2コムハウスにて

第1部 13:00 COM 最終(2024年度)総会

第2部 14:00 記念映画上映会「みんなの学校(入場無料、上映106分)」、16:00 終了

## 「これからの COM」の方針(案)

COM 会長代行 村松功啓

### 1、2024年度より、COM はこう変わります

わたしたちは、2022年度にアルプス福祉会より提案があった「COMとアルプス福祉会の関係の見直し」を受けて協議をすすめ、2023年度の方針として「COMのこれからを決める年にする」としてきました。

また、役員会として、アルプス福祉会の提案を受けとめ、アルプス福祉会と「一体」となる方向性に賛成すること。

その主な理由は、地域社会にメッセージを発信する体制をわかりやすくすることと、COMの役員・事務局体制の継続が年々難しくなっていることを、これまでお伝えしてまいりました。

そして、昨年7月の2023年度総会において意見交換を行いました。会員の方より、「アルプス福祉会と一体になる」方向性におおむね賛同されるご意見、やり方へのご提案、「COMという組織自体が大きな節目を迎えている」ことなどのお声をいただきました。

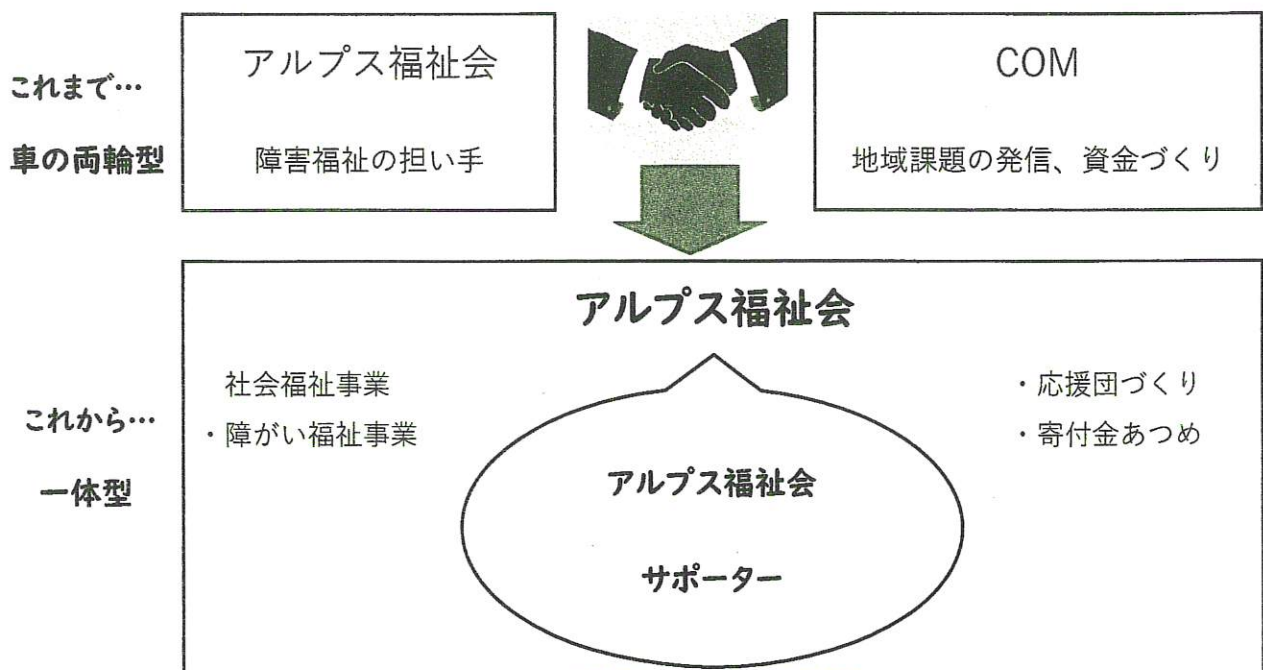
その後も役員会で協議を続け、そのうえで、「COMのこれから」について、次の方針を提案いたします。

### COM 会員から、アルプス福祉会サポーターへ

私たちは新たなつながり方に転換して、「だれもがあたりまえにくらせる街づくり」を応援します

- ①組織形態 「規約、役員体制」を持つ独立した組織形態は終了します。  
アルプス福祉会と一体型となって、街づくりをサポートします。
- ②会費 これまでの「COM会費」を「アルプス福祉会への直接寄付」に変更いただく。
- ③繰越金 社会福祉法人アルプス福祉会に、全額寄付します

### アルプス福祉会と COM… 「車の両輪型」から、「一体型」へ



## 2、COMの果たした役割

「コムハウス運動を支援する市民の会」は、1999年6月6日に行われた「コムハウスをつくる会・解散総会」にて結成されました。1999年4月、3年間の「コムハウス建設運動」によって約6500万円の資金づくりを果たし、わたしたちの念願だった新しい施設・コムハウスが開所しました。そのコムハウス建設運動を推し進めた市民団体が「コムハウスをつくる会」であり、「コムハウスをつくる」使命を果たし終えた「つくる会」が解散し、新しい形に生まれ変わったものが、「コムハウス運動を支援する市民の会:COM」でした。

COM結成以降、COMとアルプス福祉会は「車の両輪」となって、コンサートの開催や事業を展開してきました。

また、福祉事業に必要な資金づくりをすすめて、アルプス福祉会を応援してきました。

企画・事業として最も大きかったものは、「こもれび音楽会」でした。

この音楽会は、全国的に活躍されているアーティストを招き、「ステキな音楽をとおして、障がいのある人のねがいと“出会う”」機会を生み出し、かつ、大きな収益をつくりだす機会となりました。

また、障がいのある方の地域生活を描いた映画の上映会や、講演会を幾度も企画してきました。

さらに、日常的な事業活動として、物資販売も長く続け、利用者のみなさんの工賃確保を応援してきました。

COMの歴史は、様々な企画・事業をとおした、地域の方々とのつながりづくりでした。

「アルプス福祉会と地域をつなげる」ことが、25年間、COMが果たしてきた大きな役割であったと思います。

## 3、これからの地域とのつながりづくり(アルプス福祉会の計画ご紹介)

このように、COMは市民団体としてねがいを共有し、人と人をつなげ、この街に必要な居場所(よりどころ)を市民に示し、その居場所をつくるための資金づくりを行ってきました。コンサートや様々な事業はその具体化でした。

COMの活動は、アルプス福祉会をひとつの社会福祉事業体としてだけでなく、地域の方からみれば、「私の応援しているアルプス福祉会」にしてきたのだと思います。

つまり、「他人事」ではなく「自分事」にする。これが、COMとアルプス福祉会がこだわり、大事にしてきた「市民立」というあり方であったと思います。このあり方を今後も継承できるようにすることが、COMがアルプス福祉会と一体化することの目的です。

そして、これからの地域とのつながりづくりとして、アルプス福祉会は次のように計画していることを、会員のみなさまにご紹介いたします。

- ・社会への発信をとおして、「障がいのある人が生きやすい社会は、だれもが生きやすい社会であること(法人理念・ものさし)」の理解・賛同・連帯を地域にひろげ、地域を励まします。
- ・2024年度よりCOMを継承し、法人が主体となって地域社会への発信をすすめます。  
なかまの姿と日常の実践を、新たな手法も取り入れて地域に伝え、アルプス福祉会の応援団づくりと法人事業をすすめる資金づくりにとりくみます。
- ・法人本部の担当者を中心に、各事業所と連携して、日常の活動を広報する新たな手立てをつくります。  
(法人全体の広報誌の発行、SNSなど電子媒体を活用した発信等)  
また、法人を財政的に応援する多様な手立てと、個別事業への寄付の手立てをつくります。

別紙のチラシを  
ご覧ください

## 6.29 COM 最終総会記念・映画上映会

### 「みんなの学校」紹介 (みんなの映画、公式ホームページより)

#### 映画の舞台・大空小学校とは？

映画の舞台は、大阪市住吉区にある公立・大阪市立大空小学校。2012年度の児童数・約220人のうち、特別支援の対象となる数は30人を超えていたが(通常学級数6・特別支援学級7)、すべての子供たちが同じ教室で学ぶ。

教職員は通常のルールに沿って加配されているが、地域の住民や学生のボランティアだけでなく、保護者らの支援も積極的に受け入れた「地域に開かれた学校」として、多くの大人たちで見守れる体制を作っている。

学校の理念は「すべての子供の学習権を保障する学校をつくる」。

唯一のルールとして“自分がされていやなことは人にしない 言わない”という「たったひとつの約束」があり、子供たちはこの約束を破ると“やり直す”ために、やり直しの部屋(校長室)へとやってくる。テレビ版「みんなの学校」の放送後には全国各地から、支援を必要とする子どもたちが数多く、校区内へと引っ越している。

#### すべての子供に、居場所のある学校をつくりたい

大空小学校がめざすのは、「不登校ゼロ」。ここでは、特別支援教育の対象となる子も、自分の気持ちをうまくコントロールできない子も、みんな同じ教室で学びます。ふつうの公立小学校ですが、開校から6年間、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人もいっしょになって、誰もが通い続けることができる学校を作りあげてきました。

すぐに教室を飛び出してしまう子も、つい友達に暴力をふるってしまう子も、みんなで見守ります。

あるとき、「あの子が行くなら大空には行きたくない」と噂される子が入学しました。

「じゃあ、そんな子はどこへ行くの？ そんな子が安心して来られるのが地域の学校のはず」と木村泰子校長。

やがて彼は、この学び舎で居場所を見つけ、春には卒業式を迎えます。

いまでは、他の学校へ通えなくなった子が次々と大空小学校に転校してくるようになりました。

#### 学校が変われば、地域が変わる。そして、社会が変わっていく。

このとりくみは、支援が必要な児童のためだけのものではありません。経験の浅い先生をベテランの先生たちが見守る。子供たちのどんな状態も、それぞれの個性だと捉える。そのことが、周りの子供たちはもちろん、地域にとっても「自分とは違う隣人」が抱える問題を一人ひとり思いやる力を培っています。

映画は、日々生まれかわるように育っていく子供たちの奇跡の瞬間、ともに歩む教職員や保護者たちの苦悩、戸惑い、よろこび……。そのすべてを絶妙な近さから、ありのままに映していきます。

そもそも学びとは何でしょう？ そして、あるべき公教育の姿とは？ 大空小学校には、そのヒントが溢れています。

みなさんも、映画館で「学校参観」してみませんか？

「この映画、すごく良いよ!」と聞いたことがきっかけで、映画「みんなの学校」のことを知りました。

観終わったとき、きっと元気がもらえるのではないかと思います。

「だれもがあたりまえにらせる街」をめざしてきたCOMの最終総会にふさわしい映画だと考え、企画いたしました。みなさまのご参加を、お待ち申し上げます。